

2023年度 佐久長聖中学校 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重し、楽しく充実した学校生活を通して、生徒たちが魅力的な人間に成長できる環境整備を積極的に推進する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 魅力ある授業を生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 生徒の進路実現に向けて、進路指導体制の発展に努める。 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 学校の教育活動を生徒や保護者、本校志願者、地域に対し、幅広く情報発信を行う。
------	---

評価
A: 十分
B: 概ね十分
C: やや不十分
D: 不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導 進路指導	生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業が行えたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し自身の技術の向上を図りながら、生徒の興味や関心に合わせ導入等を工夫した。生徒が一人で考え、取り組む時間と、周りと協力し学びを深める時間、共有する時間を設けた。 ICTを活用し、生徒同士が話し合う場面を毎時間取り入れた。 生徒の興味・関心を引き出せるよう視覚的に理解を深めるように工夫をした。また、その画像に対する質問を多く設定し思考を高めた。 講義形式中心の授業とならないよう、活動を多く取り入れ、主体性を育むよう意識し授業を行った。 生徒が自主的に学ばなければ状況を与え、積極的な学びに繋げることができた。 時の話題を取り上げることで生徒の世の中に対する興味・関心を喚起した。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定が弱いことがあり、活発な議論にならなかったことがあった。 後半になっていくに従い、授業時数などに余裕がなくなってしまい、講義型の授業スタイルで授業をする場面が多くなってしまった。 導入部分では生徒の意欲的な姿勢が見られても、それを継続させる工夫に欠けていたため、その部分の改善が今後の課題である。 グループワークを行う時間を確保し、生徒の理解度を確認しながら進めることで、シラバスどおりに進めることが難しくなる。先取り学習と個別最適化の授業のジレンマが常にある。
		問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業を展開できたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の文章や言葉に頼り切らずに、自分の考えで書く、表現する、話す、と言うことを伝え続けることで、はじめは周りを見て、なかなか自ら書けない生徒もいたが、自由に発想することに着目し、豊かな表現で書きあらわすことができるようになってきた。また、その事項を周りと話し合う姿も増えたように感じる。 生徒が自主的に学ばなければならぬ状況を与えることで、積極的な学びにつなげることができていた。 テストでは、記述・論述問題を毎回入れ、思考力・表現力を養えるようにした。特に、時事問題では、できごとの問題点を指摘し、それに対する生徒自身の考えを述べる問題を入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の特性から問題発見・課題解決の授業設定は困難であった。 日々学などの家庭学習は、決められた日に出すことのできた生徒が少ない。 課題や自己に何が足りないかは仕向けて行かなくては、自ら見出すことは過半数の生徒は困難だと感じる。 先取り学習で進度が速いため、問題発見・課題解決力を育成するため必要な時間が確保できない。時間を確保することで生徒たちは楽しく学んでくれているが、シラバスの進捗どおりに進めることが難しかった。
		生徒の希望進路を実現するために、大学入試についての研究を行い、生徒個々に対応した指導が行えたか。	C	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試問題に生徒と共に挑戦した。全国共通試験は分析動画を参考に、出題傾向を調べた。また、調べた内容を用いて授業内容として重点的に取り扱った。 中高の連携の一つとして進路講話を各学年実施することができた。 授業内で大学入試を意識した記述指導や読解方法の提示をした。また、考査では応用問題として入試を積極的に使い、意識させた。 大学入試の問題を分析し、考査にそれを中学生用に改編した問題を作成するようにした。最初は手も足も出なかった生徒たちも、3年後の最後の学年末考査では、対処できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今の傾向を見据え、各授業を改善したとは言えない。自分自身が、視野をひろく学んでいかなければならない。 考査後の解説時には危機感をもつ生徒もいるが、怠学傾向の生徒は特に響いていない。 現在の大学入試がどのようになっているのか、大学入試に関する情報収集を意識的かつ積極的に図っていくことが必要である。
		大学のさらに先を意識しながら進路を考えられるようなキャリア教育や進路指導を実践していたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 点数に拘りすぎず、その先どのようになりたいか、どんな人間になりたいかを考えさせる時間を授業で設定した。 職場体験や大学探究があり、これらの活動に真剣に取り組んだ生徒も多くいたように思える。 教科で扱う内容がどのように社会で使われているかや、またそれを使って身の回りにある現象を説明できることを伝える機会を増やした。 大学進学を目指すのではなく、その先の生き方という意味を重視した話をしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験の直後は、意識も高められたが、持続はしない。生徒たちには定期的に将来像を意識させる投げかけをしておく必要がある。 将来のキャリアや目標から逆算して、普段の生活に活かすことが出来ない生徒への指導が不十分だったと感じる。 生徒の振り返りを継続して取り上げていくことや、広い視野を持てるような話題や経験を常に与えていくこと。
2	生徒指導	校内外問わず、いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校生活を送るための啓発活動を行い、情報収集を行えたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体の様子を努めて観察し、気になることは情報共有、対策を考えることができた。 いじめは絶対に許さないという信念で、いじめの未然防止のための道徳の授業の活用や、日々を通しての啓発活動を行うことができた。 心配な生徒や保護者には個別に声掛けを行い、担任とのパイプを常に用意できたと思う。他の先生方の協力も得ながら、問題が小さいうちに対処することができた。 些細なもめ事と思われるような事案もいじめと見え、対応した。道徳の授業も利用し、クラス全員で考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題発生から聞き取り、指導までのスピード感が足りないと感じたことがあった。 SNSなどスマホトラブル等は校内では把握しづらいため、休み時間と放課後の生徒の動きを把握することやSNSについての注意は重ねての指導が必要である。 自分の気付いていないところで苦しんでいる生徒がいるかもしれないので、情報を細かく取り入れられるよう、保護者との連絡や教職員同士の情報交換をより密にしていくなどしたい。 自己肯定感を高めるためられるよう、規律正しく生活している生徒も評価してあげたい。
		生徒に体罰や暴言と捉えられるような言動を行わなかったか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 行動そのものを注意するのはもちろんだが、どうしてこの注意をするのか、よくよく生徒の気持ちを聞きながら、時間をかけて話すようにしている。その結果、自分から悩み相談をしにくる生徒が増えた。 生徒に対する指導が必要以上に強くないか注意するとともに、その後の対応(指導したことのない時のフォロー)にも気をつけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生は感受性が強い時期なので、こちらが意図せず傷つけてしまっているときがあるかもしれない。周りの先生や生徒からの情報も取り入れようと思う。 厳しく指導する場面での言葉遣いが生徒を傷つけていないか、さらなる注意が必要。 校長が説明会などで、「生徒の言い訳を聞くこと」の大切さを話すのが、生徒指導上の問題が起こった時、強圧的な指導にならないよう、生徒の話に耳を傾けることが重要である。
3	保護者連携 地域連携	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・外部からの問い合わせを含めて、基本的には誠実かつ真摯に対応・返答することができた。 保護者の方から要望に対しては、最大限に対応できるように取り組んでいる。 保護者とはこまめに連絡をとりあい、生徒指導を行ったときには特に家庭との連絡を緊密にとるよう努めた。 保護者の話をよく聴き、立場を理解し、生徒に関しての客観的な事実を基に連絡を取り合いながら生徒への指導を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と直接連絡をとる時に、メールで行う場合はニュアンスが伝わりにくいので入力する言葉に注意をしたい。 より素早い確かな対応が行えるように電話を受け付けた時点で、誰から何についてのモノなのかを細かく聞き取り、取り次いでほしい。 真夜中や未明の時刻でも、保護者から電話やメールで相談があるため、それに対応することで、公私の区別をつけることが難しい場面があった。
		ホームページ・Classi等で積極的に学校・学年・学級・クラブ等の情報発信ができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校で行われている活動について、学級通信やHPでの配信を用いて保護者の方に伝えていくことができた。 学校の教育活動へのご理解はいただけていたと感じる。通信を心待ちにしている保護者が多く、懇談会のときに励ましと感謝の言葉をいただいた。 生徒の現状や考えていることにマッチするよう努めて、学年通信・長聖通信等の内容を考え、作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> HPでの情報発信が少なく課題が残った。 イベントごとの担当者をはっきりさせてHPでの情報発信を充実させる必要がある。 計画的な情報発信が必要である。